

2009年度

(財)福岡アジア都市研究所 (URC) 研究報告書

**福岡・釜山を中心とする
日韓連携社会の形成に関する調査研究**

**福岡・釜山間高速船利用客
(日本人・韓国人旅行者)
観光動向調査**

要 旨



U R C
Fukuoka Asian
Urban Research Center

2010年3月

要旨

I. 日韓の観光交流の動向と展望

日韓の観光交流は、訪韓日本人が多かった一方通行の時期から、21世紀に入って構造的にも変化し、双方向、対等に活発化する状況となっており、経済、安全に関わる外部環境の変化を受けた年毎の変動は見られるものの拡大基調にある。

現在、両国の間では観光のみならず政治経済、文化、スポーツなど多様な交流、連携が活発に行われていることから、日韓関係は、かつての「近くて遠い国」と言った意識を超え、新たな段階に入ったと言える。しかしながら、日韓関係においては歴史認識をめぐる問題が大きな課題となっており、国民間の草の根、観光交流を通じた問題の相互理解と関係の深化の取り組みが期待される。

II. 福岡・釜山を中心とする日韓の観光交流の動向と調査の概要

日韓の観光交流が活発となる中、日韓海峡を挟んだ福岡・釜山を中心とする九州と韓国南部においては地理的な近接性を活かし、わが国では他に類例のない船舶を主要な交通手段とした往来、観光交流が活発となっている。

URCでは、こうした動向をふまえ、福岡・釜山間の高速船航路利用客を対象としたアンケート調査を2007年から三カ年にわたって実施し、日韓の観光交流の実態や課題を経年的に把握するなどの研究を蓄積させてきている。本報告書では同調査の分析をもとに日本人、韓国人利用客の観光動向について比較検証するとともに傾向や課題を析出し、得られた知見をもとに、日韓の観光交流の拡大や関係の深化のあり方について考察する。

III. 日本人利用客の観光動向

日本人利用客の観光動向の調査結果から旅行行動の特徴としては、釜山港着後、釜山市中心部の限られたエリアを行動範囲とする1泊2日の短期滞在が過半数を占めていた。また、日本人利用客の旅行目的・体験内容としては、「グルメ」「買い物」が過半数を占め、「歴史文化遺産」を訪問した人は少なく、「グルメ」「買い物」中心の釜山滞在都市観光が、主流で過半数を占めていた。

しかし、次回以降の旅行では、「グルメ」や「買い物」よりも「体験・交流」型の活動メニューや「歴史文化遺産」への訪問を希望する回答率が高く、韓国の地域においては「体験・交流」型の観光メニューの充実や所在する「歴史文化遺産」において日本人観光客の受け入れ態勢の整備や情報発信に取り組むことが、両国の観光交流の拡大や関係の深化につながるものと見られる。

IV. 韓国人利用客の観光動向

韓国人利用客の観光動向の調査結果から、旅行行動の特徴として、博多港着後、福岡県

内のみならず九州各県の都市や名所旧跡などの観光地、温泉などに訪問、宿泊する、2泊3日の九州内周遊観光が主流で多数を占めていた。また、韓国人利用客の旅行目的としては「観光」が大半を占め、体験内容としては「歴史文化遺産」「温泉」の回答率が高かった。

次回以降の旅行では「体験・交流」型の活動メニューを希望する回答率が高く、九州のみならずわが国の地域においては「体験・交流」型の観光メニューにおいて韓国人観光客の受け入れ態勢の整備や情報発信に取り組むことが、インバウンド観光振興のみならず、両国の観光交流の拡大と関係の深化につながるものと見られる。

V. 日韓利用客の観光動向調査からの考察

日韓利用客の観光動向として、日本人旅行者は「グルメ」「買い物」中心の1泊2日の釜山滞在都市観光、韓国人利用者は2泊3日の九州内周遊観光が主流となっており、日韓の旅行者の対照的な旅行行動が相違点として明らかになった。また、「歴史文化遺産」への訪問率が高い韓国人旅行者と、訪問率が低い日本人旅行者の旅行行動も相違点となっている。

古来から2000年以上にわたる交流ルートとして日韓交流の「歴史文化遺産」が数多く存在する福岡・釜山を中心とした北部九州、韓国南部の地域においては、これら遺産を地域資源として有効に活用し、国家間では解決の容易でない歴史認識をめぐる問題に対して、地域間の観光交流を通して、先駆的に相互理解を進め関係の深化を図ることが期待される。

日韓利用客の観光動向の共通点として、旅行日程の短縮化、旅行費用の低価格化、リピーターの増加、個人旅行化が進んでいることが明らかとなった。また、次回以降の旅行で体験したいことでは「各種交流活動」「スポーツ」「イベント参加・鑑賞」などの回答率が共通して高く、日韓の地域において「体験・交流」型の活動メニューの充実や受け入れ態勢の整備に取り組むことが、両国の観光交流の拡大と関係の深化のために期待される。

VI. 対馬における日韓観光交流の取り組み

日韓海峡間の離島、対馬においては、低迷する地域経済社会の活性化を図るため、地理的、歴史的近接性、地域資源を活かした韓国との観光交流に積極的に取り組んでおり、来島する日韓旅行者が参加、交流出来る「体験・交流」型のイベントやツアーの開催や特区制度を活用した今後の日韓交流を担う人材育成など、日韓の観光交流の拡大と関係の深化を図る上で、必要な視点や要素が盛り込まれた先進的な取り組みとして興味深い。

VII. 韓国人利用客の周遊行動分析

高速船利用の韓国人旅行者の福岡を起点とする九州での主要な周遊ルートは、福岡、熊本／阿蘇、別府／湯布院を訪れるルートであることが分かった。ただし、宿泊地選択においては、福岡・熊本への集中傾向がみられ、福岡市内の充実した宿泊施設や福岡を中心として放射状に整備された交通インフラ網を念頭に置いたうえで、それぞれの地域の宿泊客誘致戦略を構築する必要があることが示唆された。

2009（平成 21）年度
福岡・釜山を中心とする日韓連携社会の形成に関する調査研究

福岡・釜山間高速船航路利用客（日本人・韓国人）
観光動向調査報告書 <要旨>

2010 年 3 月

財団法人 福岡アジア都市研究所
担当 研究主査 新井 直樹
(本編 第 I・II・III・IV・V・VI章執筆)

研究主査 田村 一軌
(本編 第VII章執筆)

〒810-0001 福岡市中央区天神 1 丁目 10-1

Phone 092-733-5686

E-mail info@urc.or.jp

URL <http://www.urc.or.jp>
